

(8) 中国



中国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

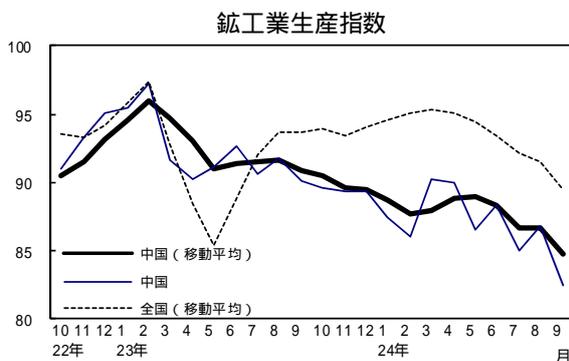
前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年8月)	今回(平成24年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
個人消費	緩やかに増加	弱い動き	
住宅建設	大幅に増加	減少	
雇用情勢	持ち直し	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

鉄鋼は、自動車向けの鋼材が不調なこと等から減少している。化学は、工場の定期修理があったこと等から減少している。輸送機械は、エコカー補助金による政策効果の一巡や世界景気の減速等から減少している。一般機械は、海外向けの半導体製造装置が好調だったこと等から増加している。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け部品の生産が好調なこと等から、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
鉄鋼	16.5	4.6	5.1	3.6	0.0
化学	16.1	1.0	2.9	4.0	9.4
輸送機械	14.8	0.4	16.9	17.0	20.2
一般機械	10.7	3.5	7.0	8.4	0.7
電子部品・デバイス	7.3	11.2	7.5	22.5	-
鉱工業	100.0	0.3	4.0	2.1	3.9

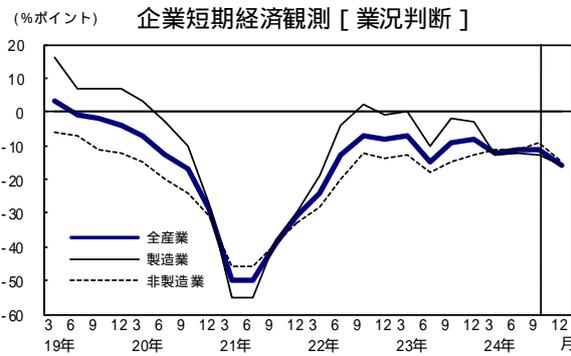
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

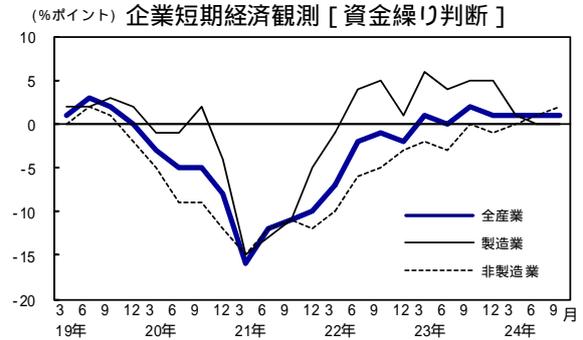
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

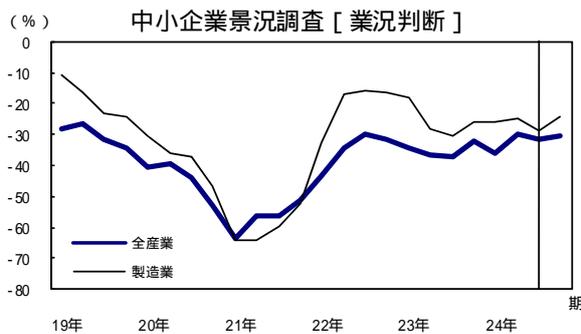
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

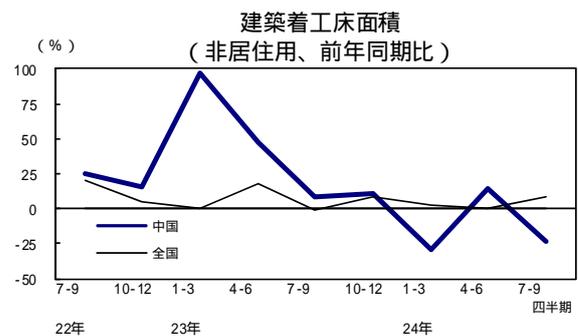
「自動車メーカーでは、オセアニア地区が堅調だが、中国での反日影響で主力車の販売・生産が激減している。欧州も不振で、全体の操業度は前年比マイナスで、円高もあり輸出採算も厳しい(金融業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度画
全産業	0.4	2.8 (1.4)
製造業	1.0	4.5 (2.3)
非製造業	0.8	0.2 (0.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額

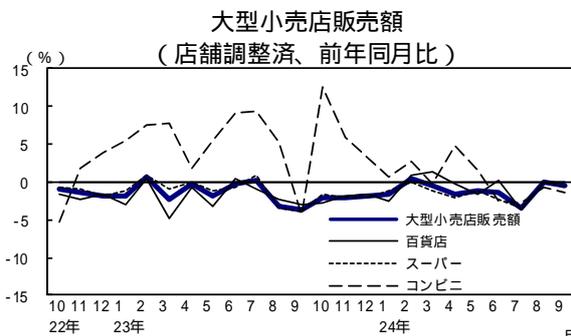
大型小売店販売額は、前年同期比で1.4%減、前期比で0.1%増となった。

百貨店は、7月は、お中元が苦戦するなど飲食料品が低調に推移したこと等から前年を下回った。8月は、お中元や和菓子など飲食料品の動きが鈍く、また秋物衣料品など婦人服も振るわなかったこと等から前年を下回った。9月は、高級時計や海外インポートブランド品が良い動きをみせ、一部の物産展が賑わうなど飲食料品も好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、梅雨明けが遅く、盛夏商材が不調だったこと等から、前年を下回った。

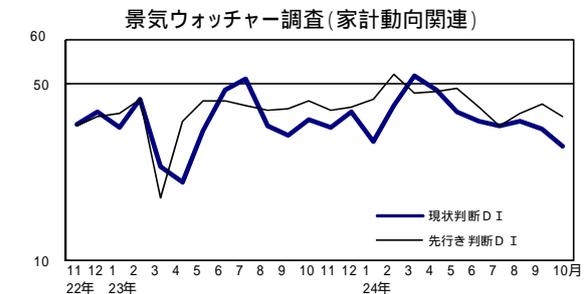
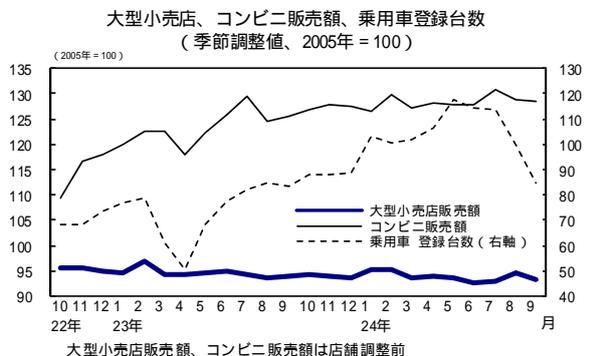
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「相変わらず尖閣諸島問題で中国旅行が激減し、客の動きも悪くなるばかりである。韓国旅行は少し戻ってきている(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.9	0.6	1.4	1.4
百貨店(*1)	2.0	0.2	0.5	1.5
スーパー(*1)	1.9	0.8	1.8	1.3
大型小売店(*2)	1.4	0.3	1.2	1.0
(季節調整値)(*3)	(0.0)	(0.8)	(1.4)	(0.1)
乗用車(*4)	26.0	44.5	68.6	17.9
(季節調整値)(*4)	(6.0)	(15.4)	(10.7)	(11.9)

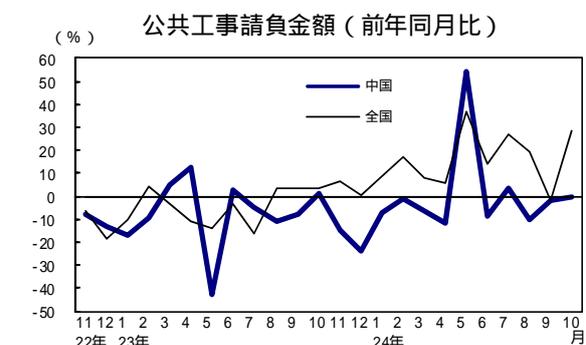
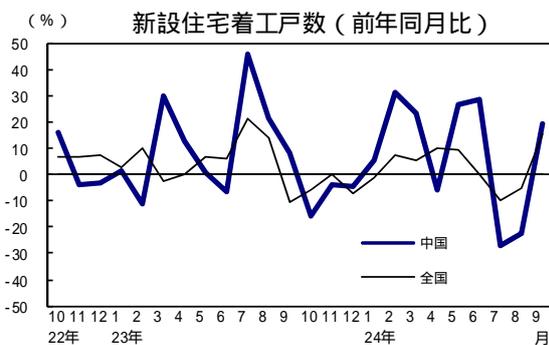
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%) 3. 店舗調整前、前期比(%)
2. 店舗調整前、前年同期比(%) 4. 乗用車は新規登録・届出台数
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲で前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

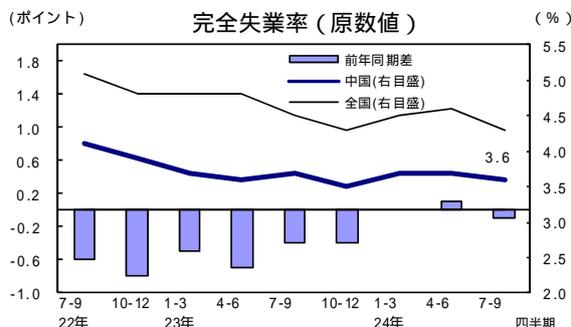
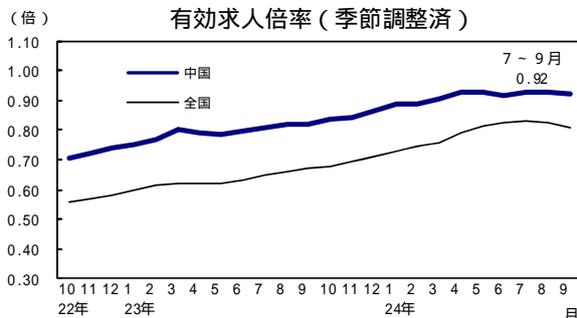


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

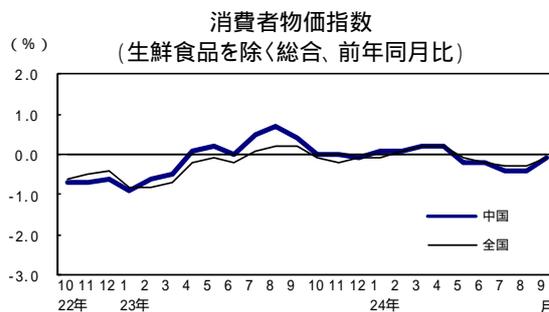
「有料職業紹介の受注・成約件数は順調に推移しているが、人材派遣に関しては、製造業の求人意欲が相変わらず鈍く横ばい状態が続いている(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は減少に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	143	130	117	135	49
(前年比)	50.5	14.0	9.3	1.5	32.4
負債総額	158	197	242	196	69
(前年比)	6.7	92.5	67.6	3.2	39.7



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・エコカー補助金が終了し、季節柄、客は行楽の方にお金をかけている感じがある(乗用車販売店)

<先行き>

- ・消費税増税前の駆け込み需要の時期には到達しておらず、しばらくは模様眺めの時期にある(住宅販売会社)

